

場立地協定書調印式



調印後、握手を交わす畠山代表取締役(左)と田村市長

誘致企業さらに1社増加

有限会社生出精密工場立地協定調印式

有限会社生出精密(畠山弘幸代表取締役)と市の工場立地協定書調印式が2月14日、市役所本庁3階中会議室で開かれました。

有限会社生出精密は、平成6年8月1日設立。パソコンや携帯電話などのコネクタ金型部品の製造を手掛けています。工場の立地場所は、大更地内で、平成25年10月に完成を予定しています。現在市内では、29社の誘致企業が操業していて、この調印により、有限会社生出精密は、合併後7社目の誘致企業となりました。

産学官連携の成果を発表

岩手大学地域連携フォーラムin八幡平市

岩手大学地域連携フォーラムin八幡平市が2月8日、西根地区市民センターで開かれました。

岩手大学と市は、平成21年3月に相互友好協定を締結し、産業振興や生涯学習に関する課題に取り組んでおり、フォーラムでは、岩手大学と市が連携してきた活動事例のほか、三陸沿岸復興の活動拠点の紹介などが行われました。また、事例報告では、安代地区館市で、地域づくり活動に参加した学生が発表を行い、地域活性化のためのさまざまな意見が出されました。



来場者は活動報告に熱心に聞き入っていました



市の未来についての講演に全校生徒が耳を傾けました

市の将来像に理解深める

農と輝の大地学習推進プロジェクト

松尾中学校で行っている「農と輝の大地学習推進プロジェクト」の市長講演が2月25日、同校多目的ホールで開かれました。

講演では、田村市長が人口の推移や安代りんどうの世界展開を紹介し、これから地域を支えていく生徒たちへ激励の言葉を送りました。講演終了後、生徒を代表して、新坂駿平君(3年)が、「市の状況を再確認し、今後は、自然環境の保全や福祉施設の充実、市のPRが大事だと感じました」と感想を語りました。

早期の領土返還を目指す

北方領土返還要求県大会

北方領土返還要求県大会が2月7日、八幡平ロイヤルホテルで開催されました。当日は、「北方領土の日」でもあり、約170人の参加者が、北方領土の早期返還に向けての気持ちを新たにしました。

大会では、立命館アジア太平洋大学客員教授の津守滋氏の講演のほか、昨年8月に択捉島を訪れた菅原勝一氏=奥州市=が現地の状況を報告しました。また、最後には、1日も早い領土返還実現のため、粘り強く運動展開を誓う大会宣言が採択されました。



津守滋客員教授(右)が返還の正当性について語りました

真冬の寒さを吹き飛ばせ

八幡平・安比ゆきフェスティバル2013

「八幡平・安比ゆきフェスティバル2013」が2月16日から24日まで、さくら公園などで開催されました。メインイベントが行われた16、17の両日は、市内保育所の園児による踊りや大更小学校吹奏楽部の演奏、雪像作りコンテストの入賞者発表などが行われました。

会場では、滑り台が付いた雪像に大勢の子どもたちが集まり、列を作って楽しそうに滑って遊ぶ姿や、出店で購入した温かい食べ物を頬張る親子連れなどが見られました。



多くの子どもたちが雪との触れ合いを楽しみました

街道生かしたまちづくり

鹿角街道まちづくりシンポジウム

鹿角街道まちづくりシンポジウムが2月2日、寺田公民館で開かれました。

当日は、地域の住民ら約100人が出席。岩手大学農学部の広田純一教授が、「地域の歴史や文化を生かしたまちづくり」と題して、講演を行いました。広田教授は、国が選定する重要文化的景観を紹介し、鹿角街道の可能性について語りました。また、パネルディスカッションも行われ、登壇者からは、歴史や文化をまちづくりに生かす意見が多く出されました。



街道の可能性について多くの意見が出されました

すなっぷギャラリー



酒とさかなに合うさまざまな器が訪れた人を魅了しました(2月22日、わしの尾尾屋)【撮影:小野寺幸子】



メモリーズコンサートでは大更小と西根中の吹奏楽部が演奏を行いました(2月24日、大更小体育館)



西根地区芸能まつりでは舞台上でさまざまな演目が披露されました(2月3日、西根地区市民センター)



八幡平遭難対策委員会が厳冬の救出訓練を行いました(2月9日、栗石町網張)



八幡平建設職組合がポパイの家で手打ちそばを振る舞いました(2月1日、ポパイの家)